

岩手医科大学歯学会第75回例会抄録

日時：平成25年7月6日(土)午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室 (C棟6F)

特別講演 (ハーバード大学留学報告)

1. 学びに対する熱意

菅原 志帆

岩手医科大学歯学部第6学年

私は、歯学部改革プロジェクトの一環である学生交換留学制度を利用して、今年の3月、2週間にわたってハーバード大学歯学部(HMDS)において世界の歯科医療、全人的医療および先進的医療についての理解を深めることを目的とし高次臨床実習を受けさせていただきました。

私は、以前から海外での歯科医療に興味を持っており、将来的には世界で活躍できるような歯科医師になりたいと思っておりました。私たちの学年は、臨床実習において学生外来ができ、患者さんを一口腔単位で診察し、ケースプレゼンテーションを行った最初の学年です。臨床参加型の実習はとても大変でしたが、実際に患者さんを診て、治療して、これまでとは比べものにならないほどたくさんのお話を学び、吸収させていただきました。そんな中で、これほどの教育システムをずっと続けているハーバード大学の学生と一緒に学んでみたいと思うようになり、ハーバード大学での高度臨床実習を申請しました。

今年になり、ハーバード大学での高次臨床実習を正式に許可していただきました。それからハーバード大学へ行かせていただくまでの間は、語学面での準備はもちろんですが、臨床実習に出たこの一年で学んだことをしっかり整理するよう努めました。例えば言葉はわからなくとも、同じ歯学を学んでいるものとして、理屈や技術ならわかりあえると思ったからです。

ハーバード大学では、授業を受けたり技を学んだり、クリニックの見学をさせてもらったり、

3年生の学生と全く同じ生活をさせていただきました。そこで感じたことは、学生の置かれた環境やクリニック、学生に与えられた症例に大差はなく、ただただ学びに対する熱意の違いなのだと思います。ハーバード大学では、いつでもどこでも学生と先生、学生間でも活発な議論が繰り広げられていました。今回の発表ではここに重点を置き、今後留学したいと思っている後輩たちの、一歩踏み出すきっかけになればと考えています。

2. 憧れから挑戦へ

小林 琢也

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座

ハーバード大学と岩手医科大学との間で、歯学部改革プロジェクトに関する正式な覚書を締結して1年半が経ちました。実質の改革活動がスタートしたのは3年前です。あつという間に月日が流れてきました。

改革が始まる数年前は、低迷する歯学部の状況に何か対策はないのかと考え、国家試験合格者の向上のために学生の勉強の様子を図書館や教室などを夜回りしチェックするなどの個人活動を行っていました。しかし、私一人の力では何も変わらない現状に疲労し絶望し、大学に諦めを感じておりました。そんな矢先に、突然の歯学部改革の始まりに驚き、困惑し、一途の希望を持ったのを思い出します。

現在は大きな希望を持ってこの改革での教育カリキュラムの改革の仕事に携わらせていただいています。しかし改革当初は、ハーバード大学に歯学部があることも知りませんでした。そして、どんな教育をハーバード大学でしているのか当然見たこともありません。そんな本質を知らない人間が、ハーバードの教育をあつかも